

学習内容報告書 フォーマット

学校名	福島県南会津郡只見町立明和小学校
授業者	第5学年担任

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

伊南川の旅

1-2. 学年

第5学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間（社会科・理科等と関連させた学び）

1-4. 単元の概要

単元導入時、農作物や米焼酎が只見町の特産品であると考えた子どもは多かったが、そこに関わる農家の方たちの農業や環境に関する思いまで捉えてはいなかったため、体験を設定することで農家の方の様々な思いに触れ、只見町の農業を守ってはいかないといけないという思いをもつことができた。また、農業で使用されている肥料と海洋ごみの関連について知り、きれいだと考えていた伊南川や海の実態を調べたいという意欲の高まりを受け、伊南川や日本海での調査を進めていくこととした。体験活動の中で、川や海のごみは人が意識的に捨てた物だけでなく、自然災害なども起因していることに考えが及んだ。また、日本海での調査の後には、伊南川と日本海の様子を比較しながら、共通点や違いについて考え、海のごみは川の上流や外国からも流れてきているのではないかと考えることができた。その後の学習では、ダムにたまったごみの行方や外国にはどのくらい日本からごみが流れているのかなど、自分をもっと探究してみたいと考えた内容について個人探究を行い、インターネットを使って他の川やダムの様子を調べたり、外国の海岸で見つかったごみについて調べたりしたことで、伊南川や日本海と比較することができた。自分たちの体験と比較しながら考える姿に、伊南川の旅の学びが生きている様子が見られた。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

田植え・稲刈り体験やねっか（蒸留所）・さんべ農園・南郷トマト選果場の見学を行ったりする中で、子どもたちは農家の方の「みんなに美味しいお米や農作物を食べてほしい。」という農作物に対する思いや地域への深い愛情・只見への愛着を感じ取ることができた。また、農家の方から農業肥料とマイクロプラスチックの関係などを教えていただき、農家の方が農業と環境を両立させるために取り組んでいることを知ることができた。農業でも海洋ごみが出ることを知り、子どもたちから「伊南川のごみがどこに流れていくのか、その影響も調べてみたい。」という声が上がリ、「伊南川の旅」を子ども主体で計画を立てた。課題意識をもって取り組んだ校外学習では、下流の川の様子や海洋ごみについて考えを深める様子が学級全体で見られた。「伊南川の旅」で見つけたものを共有する活動を通して、只見と海のつながりに気付き、これからより深く追求していきたいことを考えることができる授業を目指した。

1-6. 育みたい資質や能力, 態度

○ 只見町の農業や阿賀野川水系の環境に興味をもち, 体験活動を通して, 他地域とのつながりや, 伊南川と自分たちの生活の関わりを見出し, 今後の活動に生かそうとする力 (知識及び技能)
○ 只見町の農業に関わる人の思いにふれ, 体験活動を通して町と伊南川, 農業やそこに暮らす人の生活との関わりを意識し, 持続可能な開発目標を達成するために自分たちができていることを考え, 表現・発信する力 (思考力・判断力・表現力等)
○ 阿賀野川水系の地域に住む人や農業に関わる人と川の関わりについて学んだことを通して, 只見町の一員としての自覚を高め, 地域のよさや人の温かさを繋いでいこうとする力 (学びに向かう力等)

1-7. 単元の展開 (全12時間)

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1 ~ 2	◎ 学習課題の設定 ○ 農業体験学習時の体験や農家の方の話を想起する。 ○ 自分たちで調べてみたい課題について話し合う。	○ 農業体験学習時の体験や農家の方の話を想起するための資料や掲示物を準備し, 子どもたちが関連付けながら考えることができるようにする。 ○ これまでの学習(只見のよさや農業体験学習等)を想起し, 農業で使用されている肥料と海洋ごみに関連していることについて気付く。
3 ・ 4	◎ 「伊南川の旅」の計画立て ○ 伊南川がどのように日本海まで流れているのか, 地図やタブレットで確認する。 ○ 注意点の確認をする。 ○ 自分の調べたいこと, 知りたいことについてまとめる。	○ 計画を立てる際は, 自分たちの生活との関わりについて意識させる。何を明らかにするための見学学習か目的意識をしっかりとめさせるようにする。自分が何を調べたいのか, 知りたいのか整理させる。
5 ~ 9	◎ 「伊南川の旅」で気付いたことや分かったこと, 考えたことをワークシートやタブレットに記録しながら見学学習に取り組む。 ・ 移動中の学び(伊南川と阿賀川の合流地点の観察) ・ 阿賀野川と日本海の合流地点の観察 ・ 海辺での体験活動 ・ マリンピア日本海での見学学習	○ 川の周辺の様子や合流地点等を観察したり, 海岸のごみを実際に拾ったりする中で, 今までの学びと関連付けて教科横断的に考えを広げたり深めたりしていけるようにする。 ○ マリンピア日本海での「海洋のごみ」についての展示物と海岸で拾ったごみとをつなげて考える声かけで関連付けて多様な考えにつなげる。
10 ~ 12	◎ 学習のまとめ ○ 「伊南川の旅」で学んだことを学習新聞にまとめる。 ○ まとめたことを発表し, 聞き合うことで, 学びを深める。	○ これまでの学習を振り返り, 只見の川のきれいさはどんなことが影響しているからかまとめさせる中で, 只見の自然の豊かさについて実感を伴った学びへとつなげる。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

これまでの学びと伊南川の旅で見付けたり感じたりしたことを関係付けながら多面的な視点でごみ問題を捉え、疑問となることや不明瞭な点を明らかにしていくことで、「これからもっと探求したいことは」という新たな問いをもつことができる。

2-3. 本時の展開

学習活動・主な内容	教師の指導・支援 / の視点 (方法) 外部連携/使用教材
<p>1 現在まで行ってきた活動を振り返り、学んだり感じたりしたことを話し合い、本時の問いを引き出す。</p> <p>2 見つけたものや感じたことを伝え合う。 (1) 海と自分達とのつながりを話し合う。 ・ごみの展示の紹介があったけど、清史さんも肥料のごみが海に行くことがあるって話していた。 ・海のごみは絶対にダメかと思っていたけど、生物の住み処になっている物もあるって書いてあった。 ◎海岸にはペットボトルや空きかんが多かった。伊南川にもあったけど、誰が捨てているんだろう。 →中国や韓国から流れてきたものもあると思う。 →でも、もしかしたら同じように日本のごみも海外にいつているかも。 ・伊南川の水は透明だったけど、阿賀野川の水は少し濁って見えた。</p> <p>(2) 見えてきた新たな視点や疑問点、不明瞭な点を整理する。</p> <p>3 本時の学習を振り返り、新たな問いをもつ。 ・伊南川と海で違いがたくさんあった。只見の他の川の状況も調べ、できることを考えたい。</p>	<p>○ これまでの活動の様子を映した写真を電子黒板で提示していく。画像を見る中でこれまでの活動同士を関連付けている子どもの発言を取り上げ、「いろいろなつながりがあるのかな」と問い返すことで本時の問いを引き出した。</p> <p>○ 前時までに見たり、感じたりしてきたことを付箋に書いて分類させておく。分類したものから、「どうしてここに分類したの？」などと問うことで、分類するための根拠や多面的な視点をもてるようにした。</p> <p>○ 子ども達は今までの学習を基に話し合うと予想されるため、子どもの発言の際、伊南川の旅で撮影した写真を提示できるようにし、子どもの伝えたいことを可視化して共有しやすくした。</p> <p>○ 問い返しや再生を行ったり、大切な部分では一度伝え合いを止め、その事柄についてじっくり考えたりし、只見と海をつなぐ意識しながら自分事に落とし込んでいけるよう、話し合いをコーディネートしていった。</p> <p>○ 発言内容やつぶやきで表出した新たな気付きや視点になる言葉や疑問点を抜き出し、キーワードを板書しながら線でつないだり、グルーピングしていくことで、子どもが思考の拠り所にしたりすることができるようにした。</p> <p>○ 今日の学習で感じたことを基に、今後調べたり、やってみたりしたいことを記述することで、今後の個人研究のテーマを決定できるようにした。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>友達の気付きや感じたりしたことを自分の考えと関連付けたり、水やごみに関する様々な視点を見出したりする中で見えてきた疑問を基に新たな課題を見付けることができた。 (発言・ワークシート)</p> </div>

3. 今回の活動の自己評価

- 導入で実感を伴った学びの場であった「伊南川の旅」での写真を使うことで、そのときの出来事や感動を瞬時に思い出すことができた。それにより、学習への意欲が高まり、多様な気づきを導くことができた。また、ダムのごみの様子や水族館の海洋ごみの展示などを写真やタブレットで共有しながら話し合いをしたことで、みんなで共通のイメージをもって話し合うことや詳しく見ることができた。
- 子どもの発言の中で、昨年度のキリバスについての学びと中国や韓国からのごみを見つけた今回の調査を関連付けて考えるなかで、ごみがどこから来ているのかという話題が派生し、只見のごみも日本海へ流れているのではと予想する姿が見られた。海辺での状況を自分事として捉え、他への影響があることに気付くことは、地球を守る一因として自分の行動の仕方を考えることへとつなげるきっかけとなった。
- 理科の流れる水の働きで学習したことを根拠に、プラスチックごみが運搬されている間に石などとぶつかり、粉々になったと考えていた。また、外国のごみがあったことから、日本のごみも外国へ流れているのではないかと予想する様子も見られた。体験の前に理科や社会の学びと比較しながら見学するという視点を子ども達に提示していたため、教科横断的に考える姿が発生したと考える。

4. 今後の課題

- 写真の提示が多過ぎたため、振り返りの目的が何であるのか児童にとって不明確になってしまった。何について考えさせるか教師が明確な目的をもち、ごみの量や場所によって種類に変化があるのかなどの視点を子ども達に伝えるとよかった。
- 外国のごみが多く流れ着いている発言の時に的確な問い返しをすることができれば、日本と外国のごみの量を比較し、日本のごみも海外へ行っているのではないかと視野を広げることができたのではないかと考える。子どもたちの思考を瞬時に見取り、コーディネートしていく力を磨いていく必要がある。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- 自分たちの住む山間部への知識・理解を深める学習だえでなく、海洋とつなげて考えさせることによって、別の視点から自分たちの生活をもう一度見直すことができる地域理解学習である。

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝，10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm，左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。